

# 校長会報

平成29年度 第3号  
発行所  
島根県小学校長会  
事務局  
松江市母衣町 55  
県教育会館内  
TEL (0852) 27-8530  
FAX (0852) 67-3360

## 二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピックと日本遺産



公益財団法人鉄の歴史村振興事業団  
「菅谷たたら」山内施設長

朝日光男



### 菅谷たたら山内を見つめて七〇年

現在、私は当施設で来館者への解説やその周辺の管理に携わっています。思い起こせば、学校を卒業して最初に就いた仕事は、祖父や父と一緒に炭焼きでした。菅谷周辺の山はもちろん、何キロも離れた曾木谷まで急な山道を重たい炭を背負い下りたものでした。時には、家に帰るうにも何キロも離れていて大変だったため、炭焼き場で寂しく寝泊まりしたこともありました。当時の同世代と比べても、随分と特殊な仕事をしていただと思っています。やがてガスや電気等が普及して炭の需要がなくなると、大型トラックの運転手を十年間務め、その後は、ナカバ

ヤシアルバム工場に三〇年間勤務しました。退職後は、縁あって父も係わったこの業務に就きました。たたら山内は子ども頃の遊び場で、まさか国の重要有形民俗文化財になるとは夢にも思っていました。今、そこで全国の人たちと出会えるのは夢のようです。

### 菅谷たたら山内を取り巻く環境

国の文化財に指定されたときも驚きましたが、ここ数年の山内を取り巻く環境の変化にも本当に驚いています。特に今年には、首都圏や関西圏を中心に全国各地から、さらには世界中からも来館されるようになりました。

昨年は『出雲の國たたら風土記』鉄

づくり千年が生んだ物語』が日本遺産に認定され、今年には「たたら侍」公開とトワイライトエクスプレス「瑞風」の田部家・菅谷たたら山内への立ち寄りなど、たたらに係わるニュースで賑わっています。来館者の増加については、特にJR西日本の関係者の方に随分とPRしていただいたと聞いていますが、今後来館者の更なる増加があれば、菅谷山内の川に生息する私と同年代のオオサンショウウオの生息環境にも影響が及ぶかもしれず、少し心配もしているところです。



### 世界と繋がることのできるのか？

そもそも日本遺産とは、平成三十二年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて、日本各地に点在する歴史的文化財をパッケージ化してPRするものです。これを機に世界の人たちが日本を周遊し、各地を訪ねてもらい、地域の活性化に結びつけていくという目的があります。

私たちが暮らす島根県には、先ほど紹介した『出雲の國たたら風土記』の他に、『津和野今昔百景図を歩く』、さらに『日が沈む聖地出雲』と、三つの日本遺産が認定されています。このように世界と繋がる日本遺産をどのように発信し、世界中の人たちに興味関心を持ってもらう、実際に足を運んでもらうことがで

きるのか。そう悩んでいたところ、心強い助っ人が登場しました。

### 吉田町内三校の子どもたち

それは、吉田小学校、田井小学校、そして吉田中学校の子どもたちです。現在、この三校と三刀屋高等学校は文部科学省から「外国語教育強化地域拠点事業」に取り組んでいます。先日、英語を学ぶ町内の子どもたちが助っ人として、ある国の駐日大使が来館されたとき、菅谷たたら山内やその他の吉田の魅力DVDを通して紹介してくれました。すべて英語です。これには私も驚きました。また、先日は、文化祭で神楽を英語で上演したそうです。世界初の英語神楽かもしれません。このような学校は、全国的にもあまりないのではないでしょうか。

このような取組は、吉田町の新しい魅力です。そして、これは、島根県の魅力に付け加えられるべきです。「島根に行けば、日本語が分らなくても、英語で案内してくれる。」そういう取組が島根県全域で行われると、広島県の宮島や平和公園を訪れる海外の観光客も足をのびしてくれるのではないのでしょうか。

吉田の子どもたちが、これからも菅谷たたら山内だけでなく、島根県の魅力を世界に発信し続けてくれることを切に願っています。



第59回

島根県小学校長会研究大会(益田大会)を終えて

益田大会実行委員長 秀 浦 眞 吾 (益田市立安田小学校)

平成二十九年十月六日(金)第五十九

回島根県小学校長会研究大会を、多数の  
会員の皆様にご参加いただき、益田市で  
開催いたしました。悪天候でJ-Rの運休  
も心配されましたが、皆様のご協力によ  
り、無事終了することができましたこと  
に篤く御礼申し上げます。限られた予算  
の中で、本大会の意義を踏まえながら会  
員の皆様が多少なりとも充実感や満足感  
を得られるように益田小学校長の皆で知  
恵を出し合いながら準備を進めてまいり  
ました。多大なご支援とご協力をいただ  
いた益田市当局や市教育委員会をはじめ  
多くの関係者の皆様、本当にありがとう  
ございました。以下、大会の概要を紹介  
します。

○開会式・理事会報告

多数の来賓の皆様のご臨席のもと、県  
小学校長会長 橋本健司様、益田教育事  
務所長 村上護様、益田市長 山本浩章  
様にご挨拶をいただきました。続いて、  
県小学校長会事務局長 金山美幸様よ  
り、県理事会の報告がありました。

○分科会

第一分科会【組織運営】

「地域の魅力を実感し、地域と共に歩む  
学校づくり」をふるさと教育の推進を

通して」

安来市立布部小学校 客野 智 校長  
「ふるさと安来の将来に夢をはせ、郷  
土に貢献する人づくり」を目指して、恵  
まれた教育資源を活用したふるさと教育  
の推進に取り組みました。

(1)広域的なネットワークや組織作り  
(2)ふるさと教育の経営ビジョンの明確化  
と校長としての校内への働きかけ (3)積  
極的な情報発信を柱に、①学舎復活プ  
ロジェクト ②灯台プロジェクト ③キ  
ラリ発見プロジェクト ④授業魅力化プ  
ロジェクト ⑤学びの焦点化プロジェクト  
等、各校の特色を生かした取組を紹介  
されました。学校間や地域との連携を  
密にし、校長が明確な経営ビジョンを示  
しながら教職員への働きかけを適切に行  
うことが魅力ある学びの実現につなが  
り、「社会に開かれた教育課程」の実現  
に向けた方向性を明らかにすることがで  
きました。

第二分科会【リーダー育成】

「小さな組織の良さを生かして進める  
リーダー育成」

飯南町立赤名小学校 西村孝司 校長  
小規模校が多い実態から、町教育研究  
会等の既存の組織を生かして取組の活性  
化を図り、他校との関わりの中でリー

ダーの育成に取り組みました。①町  
教研委員長会の開催と各校長の支援に  
よる取組の活性化、「飯南町教育を語る  
会」への積極的な提案 ②事務局校輪番  
による交流活動の活性化 ③小中合同職  
員会議の開催による小中一貫教育の活性  
化 ④町内LANを活用した情報交換・  
情報共有の効率化等を通して、町内教  
員のリーダー育成に成果をあげられまし  
た。「広い視野や見通しを持つ」「コミュ  
ニケーション力や調整力を高める」に焦  
点を当て、他校の教職員と関わる機会を  
意図的に設定し、管理職が適切なサポー  
トを行うことで担当者が自覚をもって  
様々な取組を推進することにつながりま  
した。

第三分科会【連携・接続】

「幼児小の円滑な連携・接続に向けて  
〜松江市小学校長会の取組〜」

松江市立大谷小学校 中村次郎 校長  
保幼小連携において多数の関係園所が  
ある大規模校が多いため、子どもの情報  
が十分に伝わりにくい状況から、円滑な  
連携・接続に向けた市小学校長会の取組  
を紹介されました。①「保幼小連携のた  
めの連絡協議会」の設置 ②円滑な情報  
共有のための計画的な園所訪問、統一  
様式「松江市保幼小連携シート」の作  
成 ③「保幼小接続カリキュラム」の活  
用促進を図る研修会 ④関係機関との連  
携による市全体での取組の推進を紹介  
されました。  
連携推進のための組織を設置し、園所

訪問を全校実施することで保幼小相互の  
連携意識が高まったこと、情報共有の仕  
組みを統一することなど、他地域でも非  
常に参考になる取組を提案していただき  
ました。

○講演

「名物と交易に彩られた中世の石見」  
益田市教育委員会事務局教育部文化財課  
歴史文化研究センター 中司健一氏

県立石見美術館で  
開催中の「石見の戦  
国武将展」から、中  
世石見の姿を探る上  
で重要な多くの「名  
物」を紹介していた  
だし、それぞれの持  
つ意味を解説してく  
ださいました。自立  
性の強い領主の存在と、領主が連合する  
ことで幕府や大内氏から一目置かれ、困  
難な情勢の中を生き抜いたこと、豊かな  
資源を生かして広範囲な交流・交易を展  
開する「進取の精神」があったことなど  
です。これらは、石見地域のアイデン  
ティティーとして、現代にも示唆を与え  
てくれるものでした。  
大会終了後に、多くの会員の方が県立  
石見美術館を見学して下さいました。



最後に、橋本会長様をはじめ、県小学  
校長会事務局の皆様からの温かいご支援  
により、本研究大会を運営できましたこ  
とに、心よりお礼申し上げます。

### 第六十九回 全国連合小学校長会 研究協議会佐賀大会に参加して

松 元 善 生

(吉賀町立蔵木小学校)



平成二十九年十月十二日、十三日の二日間、標記の大会が開催されました。

研究会初日、全体会場となった佐賀市文化会館前では、多くの関係者の方々が非常に気持ちのよい元気な挨拶で参加者を迎えてくださいました。

開会式後には、文部科学省大臣官房審議官 白間竜一郎氏より、新学習指導要領、外国語教育改革、学校における働き方改革等についての講話がありました。特に学校における働き方改革については、学校が担う業務内容等の精査と役割分担の決定等、今後の方向性についての具体的な話を聞かせていただきました。午後からの分科会は、「研究・研修」部会に参加しました。山形県、福岡県の二名の方々の提案発表をもとに、六名ずつの協議を行いました。私が参加したグループは、校長経験が豊富な方ばかりで、それぞれの思いや学校経営上の工夫を詳しく教えていただきました。その中で、秋田県の校長先生の言葉が胸に響きま

した。「校長は年度当初学校の方針を示す。その後は足さない、引かない」と。つまり示した方針からぶれてはいけないことを教わりました。また今後の教育界の喫緊の課題である「若手やミドルリーダーの育成」についても活発な議論が交わされました。若手の育成のためには、「責任ある立場を与え、信頼し褒め続ける」ことが大切であるという点については、グループ全員が妙に納得し、今後しっかりと取り組んでいくことを確認しました。

二日目は「未来を創る子どもたちに『あたたかくつよくしなやかに』のテーマのもと、画家 中島潔氏、NHKアナウンサー 内山俊哉氏、柿右衛門窯当主 十五代酒井田柿右衛門氏によるシンポジウムが行われました。その中で紹介された京都の清水寺の住職の言葉が特に印象に残っています。「京都ではずっと守ってきた伝統がある。その伝統とは常に新しいものを取り入れていくことである」と。千年を超える京都の数々の文化が、「変えないことによる守り」の姿勢ではなく、「新しいものを取り入れていく攻め」の姿勢によって受け継がれてきた点に衝撃を受けました。まさに学校経営にも通じるものです。



### 第六十四回 中国地区小学校長教育 研究大会(岡山大会)に参加して

渋谷 秀 文

(益田市立西益田小学校)



平成二十九年十一月二日(木)、岡山県岡山市において、標記の大会が開催されました。

大会主題「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」のもと、有森裕子氏による記念講演や十三の分科会が行われました。昨年度までは二日間の日程で開催されていましたが、本年度は一日日程での開催となりました。

安井正郎大会長からは、三月に学習指導要領が告示されたことを踏まえて次のようなあいさつがありました。三つの資質・能力を育むための学習過程の質的改善や学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現が求められており、今ほど校長を中心とした学校経営の手腕が期待されている時はないと語られました。記念講演の講師は、アトラントヤバールセロナ五輪のメダリスト、有森裕子

氏でした。友達のようにうまくできない自分の中にも良さを見つけ、励ましてくれた小学校時代の恩師との出会いを中心とした講演でした。「思いとタイミングがあれば、言葉は『言葉』になる。」「みんながいやがる場所に空き(チャンス)がある。」など有森氏らしい、印象に残る言葉が多くありました。改めて、子ども達に与える教師の影響の大きさを感じることができました。

分科会は、第十一分科会「社会形成能力・これからの社会に向けた社会形成能力を育む教育の推進と校長の役割」に参加しました。鳥取県米子市と岡山県和気町の実践発表をもとにグループで意見交換を行いました。米子市は小中が連携した児童会・生徒会の実践、和気町は、地域の人材を活用したキャリア教育や長期宿泊体験の実践でした。二つの実践を通して、具体的な取り組みを職員に明示すること、持続性がありかつ組織的な取り組みにすること、校内組織の見直しと活性化など校長の役割の重要性について学ぶことができました。

初めての参加でしたが、他県の校長先生方の実践や意見交換はとても刺激になりました。来年度の大会で発表することになっている私としては学びの多い一日となりました。



朝礼講話

「目標・ゴールを見て、あきらめずやりぬく」

牛尾 聖次

(浜田市立松原小学校)



◆5月の全校朝礼で「かめとうさぎの話」をしました。校舎の中にもこのお話の絵が掲

示してあり、子どもたちはストーリーをよく知っています。「うさぎとかめが山のとっぺんまで、かけっこの競争をしました。かめが勝ちました。」

◆『どうして、うさぎは負けたのでしょうか?』『うさぎは、さぼった、居眠りをした、油断したから。』『かめは、あきらめずに努力したから。』↓「だから、かめはあきらめなかった。だから、努力しましょう。」という考え方がありません。また、なぜ、かめはうさぎを起こさなかったのかという疑問もあります。

◆このお話の学ぶ点はいくつかあると思いますが、私は、「うさぎとかめの見ていたところが違う」という考えに、なるほどと思うのです。【見てい

るところが違うから、勝敗はすでに決まっていた。】というのです。うさぎはかめを見ていた。「かめは、まだ来ないな。かめは遅いな。」とかめを見ていた。一方、かめはうさぎを見ていたのではない。かめはゴール・目標を見ていた。ゴールを見定めて、ゴールだけをしっかりと見ていたのです。だから、自分の目標や頑張る意志はぶれなかったのです。そして、自分のペースで走り抜いたのです。途中で一休みしたかもしれない。でも、あきらめぬい

で最後までやりぬいたのです。◆まずは、めあて、目標、自分の目指すゴールをしっかりと見つけること。ただ、がむしゃらに頑張れなんて言いません。そこに、ゴール、目標があるからこそ頑張れるのです。疲れた時やしんどい時は休んでもいいですよ。回復して元気になったら、また、行動する。目標・ゴールを見て、あきらめず最後までやりぬくことが大切だということをお話していると思うのです。皆さんは、どう考えますか?

◆全校朝礼の話聞いた後、教室では、「校長先生のお話を聞いて」「校長先生の伝えたかったことは何か?」と題して、感想を書いてくれます。考える全校朝礼にしたいものです。

難しい言葉

佐々木 朗

(隠岐の島町立西郷小学校)



今日は、難しい言葉を紹介します。

「かえるびよこびよこ三ひよこひよこ四ひよこ五ひよこ六ひよこ七ひよこ八ひよこ九ひよこ十ひよこ」(書いたものを用意しておく)これはとっても難しいですね。(二回目は、失敗しないように)ゆっくりだと言えますね。

逆に簡単に言える言葉もあります。お友達が「ブランコの順番変わって。」って言っています。「いやだ。まだ乗る。」って言ったことのある人いませんか。おうちの人に「○○ちゃん、ちよつと手伝って」と言われて、「だめ。今ゲームしてるもん。」このように、自分のことだけ考えて言ってしまう「いやだ」や「だめ」は簡単に言える言葉ですね。皆さんにも経験があると思います。

さて、この「いやだ」や「だめ」も難しい言葉に変身することがあります。先日の大雪の日、「雪投げしながら帰ろうよ。」と友達に誘われました。車が通るし危ないなと思ったけど、楽しそうだからと思って、雪を投げ合いながら帰りませんでしたか。そんな時、「いやだ」と言えるようになって欲しいと思います。楽しいことをやめようとする「だめ」や「いやだ」は難しい言葉かもしれないけど、この時の「いやだ」は自分の命を大切にする「いやだ」です。「だめ」は、友達を大切にすることを言っています。

これよりも、もっと難しい言葉があります。「○○さんを仲間に入れないうようにしようぜ。」と友達にさそわれて、「いやだ」や「だめ」と言うことは、とても難しい時がありますね。でも言わなくちゃいけない。校長先生は、こんな時に「いやだ」や「だめ」って言える勇気のある皆さんになって欲しいと思っています。でも、どうしても勇気がわいてこない。そんな時は、心の中にある「いやだ」や「だめ」は放って置かないでください。はじめの早口言葉もゆっくり言えば言うことができましたよね。この時のゆっくりは、おうちの人や先生に相談することです。忘れないうで欲しいと思います。

# 理事会部会報告

## 総務部

総務部では、島根県教育委員会との意見交換会の計画、島根県小学校長会の会則見直し、及びHPの開設準備等を中心に協議を行いました。

### ○県教委との意見交換会について

各市郡理事へのアンケート調査結果を基に、「外国語活動の現状について」と「特別支援教育の現状について」の二つの話題について意見交換を行いました。荒金修常任理事(安来・島田小)と中田敦常任理事(鹿足・六日市小)のお二人には、貴重な情報提供をしていただきました。

### ○本委会則の見直しについて

これまで「事務局次長」についての規定がなかったため、実態に即して項を起こして定めることにしました。また、「理事評議員会」の開催についても明示することにします。本件に関しては来年度第一回理事評議員会に提案する予定にしています。

### ○HPの開設準備について

来年度開設に向けて、委託業者の選定や予算措置等について協議を行い、以下の点を確認しました。

- ・開設に係る費用は果実会計より支出
- ・毎年の維持費は本会計より支出

(総務部 金山美幸)

## 対策部

対策部では、今年度主として以下の対策活動を行いました。

### ○「県小中学校長会教育条件改善対策委員会」と呼称した取組

○「全連小対策連絡協議会」「中国地区連絡協議会(中国地区小学校長会理事会)」への参加

### ○全連小によるアンケート調査への回答

アンケートは抽出校の校長先生に依頼しましたが、それ以外については、事務局対策部の四人が中心となって担当しています。

今年度も、「県小中学校長会教育条件改善対策委員会」は、子供たちの教育環境・条件をより良いものとするために、また、子供たちの教育を支える教職員の勤務条件等の改善を図っていくために、県教育委員会や県人事委員会等に要望活動を行いました。市町村、校種、そして学校規模等の実態のバランスを考慮した、全県的な視野に立つ要望内容でありました。

対策部では、全国校長会や市町村校長会との連動性及び、国や県の動向を踏まえながら、今後も島根の教育の一層の充実を図る要望活動が進められるよう、「県小中学校長会教育条件改善対策委員会」の方向性等について検討を重ねていきたいと考えています。

(対策部委員長 高野芳雄)

## 調査研究部

今年度は、以下のような確認・報告・協議を行った。

### 第一回(六月二十三日)

- ・今年度の調査研究活動・全連小調査協力依頼について
- ・県小学校長会研究大会に関する申し合わせ事項等の確認
- ・第五十九回島根県小学校長会研究大会(益田大会)についての協議
- ・第六十五回中国地区小学校長教育研究大会(益田大会)の説明

### 第二回(八月二十一日)

- ・県小学校長会研究大会に関する申し合わせ事項の変更についての協議
- ・第五十九回島根県小学校長会研究大会(益田大会)の準備状況説明
- ・第六十五回中国地区小学校長教育研究大会(益田大会)進捗状況説明
- ・二〇一九年度以降のブロック制による発表市郡の決定についての協議
- ・全連小アンケート調査集約状況報告

### 第三回(二月二十三日)

- ・研究大会(益田大会)の振り返り
- ・二〇一九年以降の研究大会(会場・発表者)についての協議
- ・第六十五回中国地区小学校長教育研究大会(益田大会)進捗状況説明
- ・今年度の反省と次年度の見通しについての協議

### 調査研究部委員長 鈴木理生

## 広報部

第一回理事会で、部員の編成を行い、今年度の構想や事業について話し合った。必要な情報や資料を提供していくと共に、会員相互の連携や学校運営に資することを目標とした。

### ○「校長会報」(年三回の発行)

本会の活動方針や情報の発信。定例会や支部活動の報告。また、身近な話題や会員による随想などを紙面に生かすようにした。特に今年度は、新シリーズとして「複式教育の現状」をテーマに、二人の会員に執筆していただき、小規模校のよさを生かした「わたり指導」の実際について紹介いただいた。今後も、読みやすい編集、温かさのある紙面づくりが心がけていきたい。

### ○「校長樹林」編集発行(二月)

今年度は鹿足支部に樹林の編集担当をお願いした。六月に編集基本方針が出され、それに基づいて着々と原稿依頼や部員による数回に及ぶ校正を経て、皆さんのお手元にお届けするに至った。

### ○諸活動(全連小関係を含む)

「小学校時報」の原稿依頼に対して、会員の方々には快く応じていただき、島根の教育の一端を発表することができた。ご協力いただいた皆さんには心より感謝申し上げます。

(広報部委員長 山口和芳)

# 事務局だより

事務局長 金山美幸

(松江市立城北小学校)

## 一 第五十九回 島根県小学校長会

### 研究大会(益田大会)

十月六日(金)、益田市の島根県芸術文化センター「グラントワ」を会場に、県内から約百八十名の会員が参加して開催されました。

第一分科会では、安来市立布部小学校の客野智校長先生に「地域の魅力を実感し、地域と共に歩む学校づくり」ふるさと教育の推進を通して」をテーマに、第二分科会では、飯南町立赤名小学校の西村孝司校長先生に「小さな組織の良さを生かして進めるリーダー育成」をテーマに、第三分科会では、松江市立大谷小学校の中村次郎校長先生に「保幼小の円滑な連携・接続に向けて」松江市小学校長会の取組」をテーマに、全会員が今後の学校経営に活かすことのできる貴重な実践をご発表いただきました。ありがとうございました。

また、午後からは益田市教育委員会の歴史文化研究センター主任主事司健一様より「名物と交易に彩られた中

世の石見」を演題に、中世の益田と益田氏について様々なエピソードを交えながら熱く語っていただきました。

また、閉会式後には、講演講師による石見美術館企画展「石見の戦国武将」戦乱と交易の中世」についての解説を行っていただき、多数の会員が見識を広めることができました。

益田市校長会の皆様には、昨年度より準備を進めていただき、大変有意義な研究大会を開催していただきましたこと、心よりお礼申しあげます。

## 二 第六十四回 中国地区小学校長

### 教育研究大会岡山大会

今年度より一日開催となった本大会が、十一月二日(木)、岡山市において開催されました。中国五県からは約八百名、本県からは約百十名が参加して研修を深めました。

分科会では本県を代表して、第二分科会「組織・運営」で安来市立布部小学校の客野智校長先生に、第八分科会「リーダー育成」で飯南町立赤名小学校の西村孝司校長先生にご発表いただきました。益田大会に続いての発表となりました。本県にお世話になりました。

## 三 第六十九回 全国連合小学校長会

### 研究協議会佐賀大会

十月十二日(木)・十三日(金)、佐賀市において開催されました。全国か

ら約二千五百名、本県からは二十三名が参加しました。

今年度は本県からの発表はありませんでしたが、十三の分科会に分かれて研修を深めました。

初日の全体会における文部科学省講話では、学習指導要領の改訂に伴って「改訂の方針が集約されている総則を、校内で周知すること」「校長としてカリキュラムマネジメントの確立を図ること」について説明がありました。

また、本大会用の説明資料については、「外国語教育改革」と「学校における働き方改革」の二点について多くの時間をかけて説明されました。

なお、本研究協議会に先だって開催された「全連小第二二七回理事会」には、橋本健司会長と高野芳雄副会長が、本県を代表して出席しました。

## 四 第四回理事会(お知らせ)

平成三十年二月二十三日(金)、サシラポーむらくもにおいて開催します。今年度の活動の反省と次年度の活動計画等を検討します。

## 五 平成三十年度

### 第一回理事評議員会(お知らせ)

平成三十年四月二十七日(金)、サシラポーむらくもにて、新年度の組織、事業計画等について協議する予定にしています。

## 平成29年度 会務報告

4・4	監査会
13	事務局会①
19	事務局会②
28	第一回理事評議員会
30	事務局会③
23	第二回理事会
5・5	事務局会④
25	第一回常任理事会
28	中国地区理事会(岡山)
8・21	第三回理事会、 県教委との意見交換会
10・6	第五十九回島根県小学校長 会研究大会(益田)
11・2	全連小佐賀大会(13)
12	第六十四回中国地区小学校 長教育研究大会(岡山)
12・15	広報部会
14	事務局会⑤
1・12	事務局会⑥
2・9	中国地区理事会(岡山)
23	第四回理事会

## 編集後記

本年度も残り少なくなり、会員の皆様にはご多忙な毎日をお過ごしのことと思います。

本年度、最後の会報をお届けします。

ご多用の中、ご協力、ご執筆いただきました皆様に、心からお礼申し上げます。

(角)

